

a ミッション	すべての生徒が、将来、積極的に生き、働き、豊かな人生を送るための資質・能力「生きる力」の育成を図る。	a ビジョン 自ら考え、判断し、行動できる生徒の育成	(育成を目指す資質・能力) 「主体性」「協働性」「創造性」
---------	--	-------------------------------	----------------------------------



評価計画						自己評価					学校関係者評価			改善計画		
	b 中期経営 目標	c 短期経営目標	d 達成のための方策	e 評価指標	f 目標 値	7 月	1 月	h 達成 度	I 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価			l コメント	m 改善案	
						g 達成 値	g 達成 値					イ	ロ			ハ
主体的 対話的で深い学び カリキュラムマネジメント 社会に開かれた教育課程	学習の個性 化と協働的 な学びの充 実	総合的な学習の時間「ま なびのとびら」の充実	・様々な体験から得た生徒の興味・ 関心・キャリア形成の方向性等に応 じ、生徒一人一人に応じた学習活動 や学習課題に取り組む機会を提供す る。	（生徒質問紙） 『『まなびのとびら』では、友だちと話 し合うなどして、自分の考えを深め たり、広げたりすることができていま すか。』肯定的回答の割合	80% 以上											
		特設授業「まなびスペシ ャル」の充実	・本物（専門家）との出会いで社会 を意識し、自らの生き方を見つめる 学びを推進する。（3回/年間）	（生徒質問紙） 『『まなびスペシャル』では、自らの生 き方や、自分自身を見つめることが できていますか。』肯定的回答の割合	80% 以上											
		異文化間交流活動の充実	・多様な国の人々との交流を通し、 世界の人々が、国を超えて理解しあ い、協力し、世界平和を実現する教 育を推進する。（TW・NZ・FR）	（生徒質問紙） 「外国の人と友達になったり、外国のこ とについてもっと知りたいと思いま すか。』肯定的回答の割合	80% 以上											
		生徒の自治的な活動の 充実	・生徒会行事や体育大会、まなびの 発表会は、生徒が主体となって成功 を目指し、多くの生徒と共に感動を 味わいながら企画・運営を実践的に 学ぶ教育を推進する。	（生徒質問紙） 「学校がより良い学校になるために活 動したいと思えますか。』肯定的回答の 割合	80% 以上											
	指導の個別 化と協働的 な学びの充 実	学びの選択肢のある授業 の充実	・生徒一人一人の特性や学習進度、 学習到達度等に応じ、指導方法・教 材等の柔軟な提供・設定を行う。	（学力調査） 通過率が全国平均以上の生徒の割合	55% 以上											
		単元内自由進度学習に係 る研究推進と実施	・単元開始時に自ら全体の学習計画 をたて、プリントやICT等により 自立的な個別学習を行うことを通し て、自らの学びをモニターしながら、 メタ認知や学習を自己調整する力を 育成する。	（生徒質問紙） 「授業では、自分に合った学習活動や学 習課題を選ぶことができますか。』肯定 的回答の割合	80% 以上											
		「まなび Challenge」の 充実	・定期試験期間中の6時限目は、自 ら立てた各教科の目標達成に向け て、自分なりの計画と、自分なりの 方法で学びを進める力を育成する。	（生徒質問紙） 『『まなび Challenge』では、試験に向 けて、自分で考え、自分から取り組ん でいますか。』肯定的回答の割合	80% 以上											
	生きる力 の育成	実	手帳による生活習慣・学 習習慣の確立	・生活や学習における目標を設計し、 習慣的に見直しをすることにより、 努力を成果に結びつけ、結果、自分 に自信を持ち、自ら学ぶ力を身に つけるよう伴走・支援する。	（生徒質問紙） 「手帳を使うことにより、次の一週間の 見通しを持つことができていますか。』 肯定的回答の割合	80% 以上										
深い生徒理解と 科学的根拠による適切な 学びの伴走・支援			・日常の観察による深い生徒理解と データに基づいて教育を分析し、得 られた知見を改善に生かしながら伴 走・支援する。	（資質・能力と教育活動の教育効果を定 量化する評価ツール） 「主体性」 「協働性」 「創造性」	1 学年 220 2 学年 230 3 学年 240											
時 間 の 確 保	子供と向き合 う	業務改善・ 働き方改革 の推進	時間外業務時間の縮減	・これまでの働き方を見直し、自らの 授業を磨くとともに日々の生活の 質や教職人生を豊かにすることで、 自らの人間性や創造性を高め、子供 たちに対して効果的な教育活動を行 うことができるようにする。	（入校退校時刻記録） 一か月の時間外業務時間 45 時間以下 の職員の割合	50% 以上										

【自己評価】

A:100% (目標達成)

C:60≦(もう少し) < 80

B:80≦(ほぼ達成) < 100

D:(できていない) < 60

【外部評価】

イ:自己評価は適正である。

ロ:自己評価は適正でない。

ハ:わからない

